3－2　測定条件

別表１及び別表２における消費電力量及び時間の測定は、次の条件の下で行うものとする。

⑴　定格入力電圧は、交流電源100±１ボルトとし、電源周波数は50ヘルツ±１パーセント又は60ヘルツ±１パーセントとすること。ただし、最大消費電力が1.5キロワットを超える製品については、交流電源100±４ボルトとする。

⑵　全高調波歪は、２パーセント未満とすること。ただし、最大消費電力が1.5キロワットを超える製品については、５パーセント未満とすること。

⑶　周囲温度は、23±２度とし、相対湿度は、65±10パーセントとすること。

⑷　用紙は、A四判であって、64ｇ／㎡±５パーセントとすること。

⑸　測定装置については、以下の要件を満たす計測器を用いること。

①　周波数応答が３キロヘルツ以上のもの。

②　消費電力測定値のワット数に従い、測定装置の分解能が以下の設定であるもの。

１）　10ワット以下の消費電力測定値については0.01ワット以下

２）　10ワット超から100ワット以下の消費電力測定値については0.1ワット以下

３）　100ワット超から1.5キロワット以下の消費電力測定値については１ワット以下

４）　1.5キロワット超の消費電力測定値については10ワット以下

③　測定値の精度は５パーセント以内とする。ただし、0.5ワット以下の測定の精度については0.02ワットとする。

④　測定実施日の過去12か月以内に校正を行ったもの。

⑹　計時装置については、秒単位で計時ができるものを用いること。

⑺　測定は、片面画像の原本を用いて、モノクロかつ片面で、印刷又は複写する。

⑻　試験画像は、ＩＳＯ／ＩＥＣ規格10561（1999）の試験パターンＡを用いることとし、10ポイントサイズの固定値であるCourierフォント又は類似のフォントを用いるものであること。なお、試験画像は、A四判にレンダリングし、ページ記述言語に対応できる複合機には、画像をページ記述言語で送ること。

⑼　電力管理の移行遅延時間や解像度は、出荷時と同じであり、かつ製造事業者等が取扱説明書又はウェブサイトにおいて推奨する構成に設定する。ただし、出荷時に自動オフ機能が有効にされている印刷機能のある複合機は、無効にして測定すること。また、出荷時の設定がネットワーク接続を可能にしている印刷機能のある複合機については、外部から給電を受けている機器１台以上とネットワークを通じ接続し、データの交換が可能である状態で測定すること。なお、試験用の印刷は、ネットワーク接続された機器であっても、ＵＳＢなど非ネットワーク接続による手段により行うことも可とする。

⑽　給紙装置及び仕上げ用装置は、出荷時と同じであり、かつ製造事業者等が推奨する構成に設定する。なお、出荷時に標準装備されるハードウェアはすべて取り付けて測定する。

⑾　すべての消費電力は、ワット時で記録し、時間は、秒単位の解像度のあるもので計測し、秒単位又は分単位で記録する。

⑿　点検又は保守モード、カラー校正は、測定に含めないこと。複写試験２、複写試験３若しくは複写試験４又は印刷試験２、印刷試験３若しくは印刷試験４においてこれらの状態が生じた場合は、その複写又は印刷試験を無効とし、複写又は印刷試験４の直後に代替の複写又は印刷試験を実行する。ただし、無効にした複写又は印刷試験を含めて15分間の試験間隔を確保すること。

⒀　除湿機能は、出荷時の状態に設定して測定すること。

⒁　１日当たりの複写又は印刷回数及び複写又は印刷１回当たりの画像枚数は、別表３の数値を用いるものとする。

別表１（複写試験の手順等）

試験手順		試験開始時の機器の状態	試験によって測定されるもの	試験中の機器の状態
1）	機器と計測器を接続する。計測器の目盛りをゼロに合わせる。試験開始を待つ（５分以上）。	オフ	オフ時の消費電力量及び機器のスイッチを入れるまでの時間	オフ
2）	機器のスイッチを入れる。機器が稼働準備時に移行したことを示すまで待機する。	オフ	—	—
3）	別表３に定められた画像枚数の複写を１回実行する。機器がスリープ時に移行したことを計測器が示すまで待機する。	稼働準備時	１枚目の用紙が機器から排出されるまでの時間	—
4）	計測器の目盛をゼロに合わせて、１時間待機する。１時間経過する前に機器が自動オフ時に移行した場合は、スリープ時の時間と消費電力量を記録する。その場合も、５）に移る前に１時間待機する。	スリープ時	スリープ時の消費電力量及びスリープ時間	スリープ時
5）	計測器と計時装置の目盛をゼロに合わせる。別表３に定められた画像枚数の複写を１回実行する。計時装置が15分経過したことを示すまで待機する。	スリープ時	消費電力量（$W_{J1(\alpha)}$）及び１枚目の用紙が、機器から排出されるまでの時間	複写時、稼働準備、スリープ時、自動オフ時
6）	５）を繰り返す。	稼働準備時	消費電力量（$W_{J2(\alpha)}$）及び１枚目の用紙が機器から排出されるまでの時間	同上
7）	５）を繰り返す（稼働時間の測定なし）。	稼働準備時	消費電力量（$W_{J3(\alpha)}$）	同上
8）	５）を繰り返す（稼働時間の測定なし）。	稼働準備時	消費電力量（$W_{J4(\alpha)}$）	同上
9）	計測器と計時装置の目盛をゼロに合わせる。機器が自動オフ時（印刷機能のない複合機であってファクシミリ機能を有するものにおいてはスリープ時）に移行したことを計測器又は機器が示すまで待機する。	稼働準備時	複写試験４後の自動オフ時への移行時間（$T_{(\alpha)}$）（複写試験４開始の15分後から自動オフ時（印刷機能のない複合機であってファクシミリ機能を有するものにあっては、スリープ時）に入るまでの時間）及び自動オフ時への移行時の消費電力量（$W_{T(\alpha)}$）	稼働準備時、スリープ時